

急速に拡大する薬剤耐性淋菌感染症と対策

◆最後の選択肢のセフェム系抗生物質にも耐性を示す淋菌が世界的に増加

既存の抗生物質が効かない薬剤耐性菌の増加は、先進国でも早急に対応が求められる公衆衛生上の大きな問題である。2017年7月、世界保健機関（WHO）が発表した調査結果では、全世界で毎年7,800万人程の新規感染があり、性感染症では最も一般的な淋菌感染症でも、薬剤耐性菌が急速に拡大している。

薬剤毎に回答国数が異なるが、安価なニューロキノロン系抗生物質のシプロフロキサシンでは70/72カ国で耐性菌が確認された。マクロライド系抗生物質のアジスロマイシンでは47/58カ国、最後の選択肢とされるセフェム系抗生物質のセフトリアキソンでも51/77カ国で確認されている。国により耐性菌が見出される割合は異なるが、淋菌感染症に対する抗生物質投与の歴史が長い日本では、高い確率で耐性菌が見出される。単独の抗生物質で治療が難しい場合、セフトリアキソンとアジスロマイシンの併用が推奨されているのが現状である。

◆非営利団体の支援を受け臨床試験が進められる新規骨格を有する抗生物質

淋菌に対する抗生物質の開発は、治療が短期間で終わること、淋菌が耐性を獲得しやすいために常に新薬開発が求められることから、一般の製薬企業にとっては魅力がない。そのため、新規な抗生物質の研究開発も低調で、現在、わずかに3つの候補薬剤の臨床試験が進められているにすぎない。

17年7月の非営利団体「顧みられない病気の開発イニシアティブ（DNDi）」の発表によれば、候補薬剤の一つ、新規骨格を有するゾリフロダシンに関して、「グローバル抗生物質研究開発パートナーシップ（GARDP）」とエンタシスセラピューティクス（Entasis Therapeutics）が共同開発に合意した。エンタシスは淋菌特異的な抗生物質としてゾリフロダシンの開発を行っていたが、資金不足のために、第Ⅱ相試験で良好な結果を得ながら、第Ⅲ相試験に進めずにいた。

淋菌感染症は典型的な例であるが、薬剤耐性菌が増加するなかで、その対策として、新規骨格を持つ抗生物質の開発とともに、簡便で迅速な診断キットの開発や、究極的には、ワクチンの開発が望まれている。

【戸潤一孔】